

大津市公共下水道事業終末処理場運営協議会
令和2年度 第1回定例会
【 会 議 概 要 】

1 日時：令和2年11月13日（金） 14:00～15:00

2 場所：水再生センター会議室

3 出席者：

委員 《地元代表》

前田 英雄 （大津市公共下水道地元対策委員長）〔座長〕

小島 恵理 （大津市公共下水道地元対策委員）〔職務代理者〕

山元 皓一郎 （大津市公共下水道地元対策委員）

嶽山 進 （大津市公共下水道地元対策委員）

高見 義弘 （大津市公共下水道地元対策委員）

秋澤 雅男 （大津市公共下水道地元対策委員）

田中 未恵 （大津市公共下水道地元対策委員）（欠席）

鳥井 正 （大津市公共下水道地元対策委員）

《市代表》

清水純（副市長）、山極正勝（公営企業管理者）（欠席）、三國昌克（企業局長）

事務局 企業局施設事業長 山田、企業局技術事業長 北村、

下水道施設課 課長（水再生センター所長）美濃辺

課長補佐 今井、主査 中村、主査 藤野

下水道整備課 課長 伊藤、副参事 磯田

水再生センター副参事 白井、主幹 太田

傍聴者 なし

4 発言要旨

議事（1）座長の選出について

事務局一任により、座長は前田英雄委員に決定

座長の指名により、座長職務代理者は小島恵理委員に決定

議事（2）大津市下水道事業の概要について

事務局：資料に基づき説明。

委員：資料1ページの管渠等の整備状況で、大津処理区内の既設管路366kmのうち、約5.3kmの改築。この改築というのは、この前のなぎさ公園のこともなされていますが、耐震化を含むということなのでしょうか。

事務局：耐震化とは別でございます。耐震化の事業と改築更新事業を分けて行っております。工事の内容としては、ほぼ同様の内容ですが、既設の管の

中に新しい管、「管更正」というふうな呼び方をしておりますが、新たに中にパイプを設けるようなそういう工法で改築も耐震も実施しています。

基本的には改築というのは老朽化対策です。大津処理区については先ほどからも言ってますように供用から50年以上経過しておりますので、そういう老朽化に対応したものが改築更新で、耐震化は地震が起きた時に管路がもたない場合に耐震化をすると、補強をするという形のもので、この5.3kmについては老朽化対策によって実施したものでございます。

委員：耐震管の方は本管のかなり大きなものが中心であって、もう少し本管に通じるような小型というか小さめな管に関しては老朽化で替えるのが中心となっているのか。

事務局：耐震化事業については現在進めておりますのは、主に防災拠点の下流側であったり、例えば広域避難場所の下流の管路であったりとか、救急告示病院の下流側であったりとか、あとは震災時に重要物資を運ぶための緊急輸送道路の下の管路であったりとか、そういったところを対象に耐震対策を実施しております。

委員：どうもありがとうございました。

事務局：付け加えますと、老朽化で改築更新工事を実施した管路についても、最終的に出来あがったパイプについては勿論、耐震化をされております。何を視점에当てて工事に着手するかの違いがあるだけで、すべてそういう形で更新工事を実施したものについては、耐震化が図られております。

議事（3）水再生センターの令和元年度整備状況と令和2年度整備計画について

事務局：資料に基づき説明。

委員：水再生センターで発生した脱水汚泥については、滋賀県湖西浄化センターにおける県との共同汚泥処理と民間企業における肥料化処理を行っていましたが、平成28年1月からは湖西浄化センターに新設された汚泥燃料化施設で全量処理を行っておりますとのことですが、肥料化するよりも炭化したほうが何かメリットがあるのでしょうか。

事務局：炭化につきましては、滋賀県と共同処理をする過程におきまして、県と一緒にどの方法が一番メリットがあるのか、経済的かとか、あと作ったものを販売するにしてもその販路とかがありますので、この湖西浄化センターと水再生センターの汚泥を処理するのに一番最適な方法は何かということで、数年に亘って協議させていただきまして、いろんな比較をした結果、炭化で燃料化するというのが最も費用的にも有利であるということで、炭化することを採用させていただいております。

委員：炭化したものは燃料になるのですか。

事務局：今まででしたら、灰になるまで燃やして、その灰を処理していたのですが、それよりまだ低い温度で水分とか不要なものをとばした炭のような状態で処理を終えまして、それをセメントの工場であったり、製

鉄所の燃料の一部として使っていただいていると聞いています。そういうところは石炭とかを燃料に使っておられまして、汚泥を炭化したもの全部を代替えるのではなく、燃料の一部として使っているということです。

事務局 : 製鉄所などの発電とかで石炭燃料を使って発電しているところとかの代替燃料として使用されているようです。混焼率と言いますか、元々石炭にどれくらいの汚泥燃料を混ぜるのかと言いますと、だいたい3%とかそういう微妙な量らしいです。というのは、非常に発電という重要な工程ですので、発電に影響を出さないように安定的に運用しようとする、やはり混焼率というのは3%程度になるということを知っています。

委員 : 単純に肥料と炭化と考えたときに、肥料でも良いのではないかというのが炭化処理にすべてするということですので、それの方がより環境に優しいとかと言うのであれば、何かそういう文言があれば分かりやすいなと思っただけの質問です。今、大津市の方が良いというお考えだとすれば、何かもう少し「こう変えたことによって良くなった。」という文言があった方が地域の人にも分かりやすいかなと思います。以上です。

事務局 : ありがとうございます。

議事（４）令和元年度・令和２年度水再生センターの管理運営の状況について

事務局 : 資料に基づき説明。

特にご意見、ご質問はなし

議事（５）その他

水再生センターに関するご意見、ご質問はなし